

拠点名称：再生可能多糖類植物由来プラスチックによる資源循環社会共創拠点

代表機関	金沢大学	プロジェクトリーダー	高橋 憲司 金沢大学 理工研究域 生命理工学系 教授
参画機関	(大学等) 北海道大学、東海国立大学機構、神戸大学、農業・食品産業技術総合研究機構、北陸大学 (企業等) 三井住友信託銀行株式会社、株式会社ダイセル、草野作工株式会社、住友ファーマフード&ケミカル株式会社、日本乳化剤株式会社、マルハニチロ株式会社、日東電工株式会社		

プロジェクトの概要

本拠点では多糖類農業廃棄物を資源として捉え、プラスチックごみを生み出さないバイオプラスチック製品を用途に合わせてリデザインします。適切な量だけ生産し、使用後に回収して再生することで無駄なく使い続ける、バイオプラスチック循環プラットフォームを構築します。そのプラットフォームが、様々な世界地域へ、樹木の年輪のように拡大成長し、大量生産、大量廃棄による暗黒の未来を防ぎます。

本プラットフォームの運用のため、多糖類農作物を持続的に生産可能な技術を社会実装し、プラスチック生産、消費、リサイクルに関するサプライチェーンを構築し、絶対的デカップリングを達成します。このような社会システム転換の実現のため、インパクトファイナンスを実践する金融機関が協力します。

拠点の循環型プラスチック製品の社会実装により、企業と使用者の価値観が変わるイノベーションサイクルを回して、様々な問題解決につながるモデルを示します。

これら5つのサイクルを、まるで協奏(共創)曲のように奏でることで、ポストコロナ社会を見据えた資源循環共創社会と「価値観のイノベーション」を実現し、人々を幸せにするSDGs目標達成に、スピード感を持って貢献します。

